

環境のトビラ

監修 岐阜県野生動物管理推進センター 森 智基

どんな動物？
ツキノワグマ

きれいな水、おいしいキノコや木の実。

私たちにたくさんのめぐみをもたらして

くれる山は、たくさんの動物たちのすみかでもあります。ひととき大きな体で力強く生きているのがクマ。私たちの住む岐阜県には「ツキノワグマ」という種類のクマが生息しています。厳しい自然の中でたくましく生きるツキノワグマの姿を見つめてみましょう。

視力はわるいけど、動くものへの反応はするとい



目

きゅう覚はほ乳類の中でもトップクラス!



鼻

名前の由来となった白い月の輪もようがある



胸

おとなのオス

体長120~140cm 体重 平均66kg

おとなのメス

体長110~130cm 体重 平均47kg

- 4歳くらいでおとなのからだになる
- 寿命は平均20年
- 性格はクマごとにちがう



奥飛騨クマ牧場の子クマ



草や木の実、昆虫などを食べる雑食性。

手・爪

木登りが得意で、木の実や若葉を食べる。5cmぐらいのすどくてかたい爪をしている

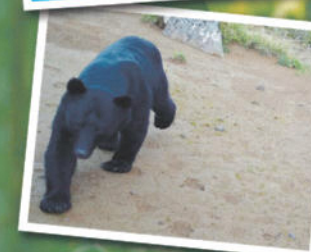


足

ダッシュしたら、時速40~50km (100mを7~9秒台)で走る
1日に平均1~3km移動する

活動時間

春から夏は昼、秋は昼も夜も活動。冬は冬眠する



なぜ山からおりてくるの？

夏や秋に山の食べものが少ない年は、食べものを求めて行動範囲を広げます。また、畑の作物、柿や栗などの果物、生ごみは、クマにとって見つけやすいごちそうです。さらに、若いクマが新しいすみかを探して歩き回るとちゅうで、ぐうぜん人里に入ることもあります。そこで食べものを見つけてしまうと、「山で必死に探さなくても、ここに来ればおいしい食べものにありつける」と学習してしまい、何度も人里におりてくるようになります。



ともに生きていくためには？

人間とクマがおたがいのにとってちょうどよい距離を守ることが大切です。



①会わない

- 場所や時間帯に気をつけて行動する
- 気配やこん跡があったら立ち去る
- 山の近くや中では1人にならず、音を出しながら行動する

②食べものを放置しない

- 柿や栗の実を残さず取る
- 生ごみは決まった日の朝に出す
- 食べものや容器をポイ捨てしない

③落ち着いて行動する

- 背中を見せず、ゆっくり後ずさりする
- おそってきたときは、うつぶせになり、お腹と首・頭を守る

